

整備技術力を強化

日整連がスキャンツール活用支援

4月1日から日本自動車整備振興会連合会（日整連、坪内協致会長）によるスキャンツール活用事業場認定制度がスタートした。自動車の電子制御装置の機能診断ができる事業場であることをユーザーにアピールし、信頼を獲得することが狙い。

自動車整備業界では、整備技術力を高め新技術に対応しなければ今後の生き残りが厳しいとされ、スキャンツールの活用が必須とされている。

自動車整備を取り巻くこうした変化を背景に、日整連ではスキャンツールに関する研修を実施する。基本研修は2012年度からすでに開始、応用研修は13年度から実施する。スキャンツールを使用し、新技術に対応した高度な診断・整備技術の習得を目標とする。

また一定の要件を満たした事業

場を「コンピュータ・システム診断認定店」とする認定制度を13年度から開始する。

地方整備振興会の会員で、スキャンツール応用研修修了者または1級自動車整備士が1人以上勤務していること、一定の機能を持つスキャンツールを保有していること、日整連が提供する整備情報システム「FAINES」に加入していることが認定の条件となる。

認定店は看板やのぼり旗、卓上楯のどれかひとつ以上を購入する。

また、日整連はこのほど実践マニュアル「選ばれる事業場になるための取組みヒント集」をまとめ、整備事業者が取り組むべき事項等について、具体的な取組み例をQ&A方式で取りまとめた。

こうした支援策により、整備事業場の整備技術力の強化、入庫・売上拡大につなげたい考え。

●認定店のツール



のぼり旗



看板

楯

